

ホラー&

ミステリー

背筋がぞくぞくする4冊。

妖怪たちのラビリンス 西洋異界案内

菊地卓太／著
株式会社KADOKAWA(2013年)
本体価格1700円+税

本書の中では「人間や動物の枠からはみだした不思議な生き物」を妖怪と呼んでいる。

魔女にドラキュラ、悪魔…。

心霊現象は妖怪のしわざなのか?!

大学で「妖怪学」の講義を行う筆者が宗教や芸術と絡めて西洋妖怪について語る。



鋼鉄都市

アイザック・アシモフ／著 福島正実／訳
早川書房 ハヤカワ文庫(1979年) 本体価格840円+税

はるか未来、人口過剰とエネルギー不足に悩む地球。ニューヨークシティの刑事ペイリは、ある殺人事件の担当となる。被害者は「宇宙人」。捜査の相棒は人間そっくりのロボット。彼にとっては予想外の状況だった。未来に希望が持てない閉塞感や異質なものへの嫌悪感と戦いながら、ペイリは捜査を進めてゆく…。



怪談牡丹灯籠

恋、愛、裏切り、
死者と生者が織りなす
夢と現の物語

金原瑞人／著 佐竹美保／絵
岩崎書店(2014年) 本体価格1500円+税

日本の古典を現代の作家がそれぞれの個性を生かして再現したシリーズ。古典と聞くと難しいイメージを持つ人が少なくないかもしれませんが、昔から長く人々に愛されてきた作品には、現代に通じるものがたくさんあります。

読んでみたら、自分とそんなに変わらないんだな、と感じることもあるかも。

※「ストーリーで楽しむ日本の古典」シリーズ全10巻、全館所蔵。



演奏しない 軽音部と 4枚のCD

高木教史／著
早川書房 ハヤカワ文庫(2014年)
本体価格640円+税

檢未来は亡くなった叔母が遺した変わったCDをきっかけに、軽音部なのに“聴く専門”の塔山雪文と知り合う。音楽に詳しい塔山に協力してもらい、ときには塔山たちとコントみたいな会話を繰り広げながら、変わったCDが必ず関わる4つの謎を解き明かす。